

平成29年2月11日

研修報告書

松戸市議会議員

大塚 健児

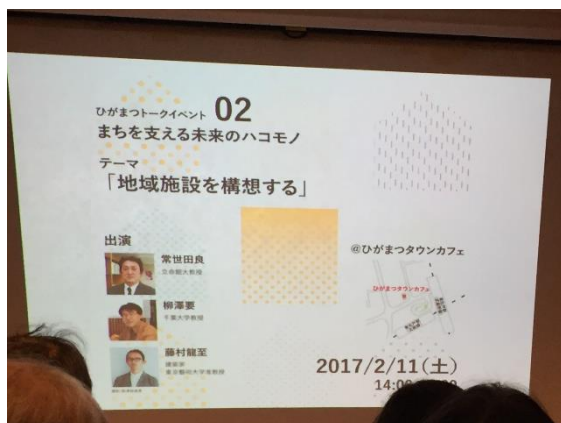
研修:地域施設を構想する

主催:松戸市

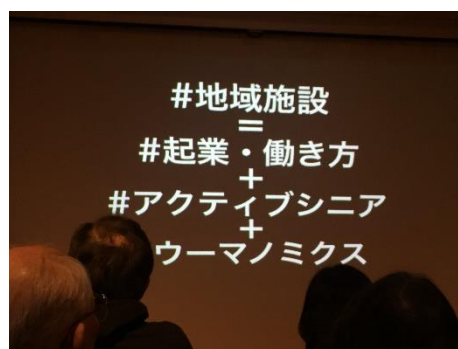
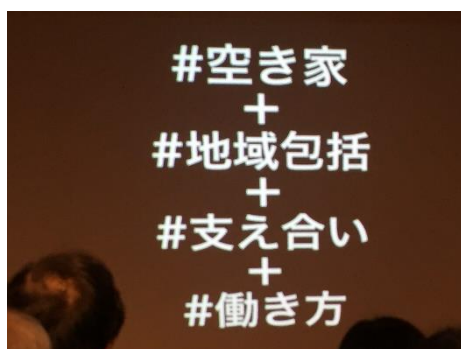
日時:平成29年2月11日(土) 14時~16時

場所:ひがまつタウンカフェ

【研修報告】



これから最大のポイントは公共施設再編と空き家対策は言うまでもありません。それをいかにして地域や家族が連携した街づくりができるかがポイントだと思います。

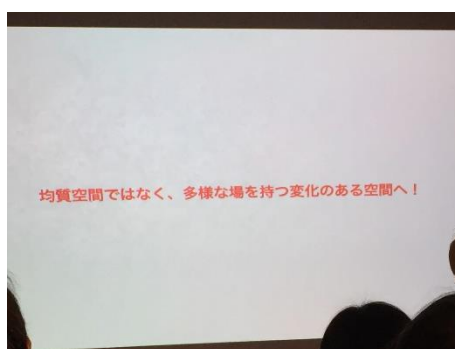
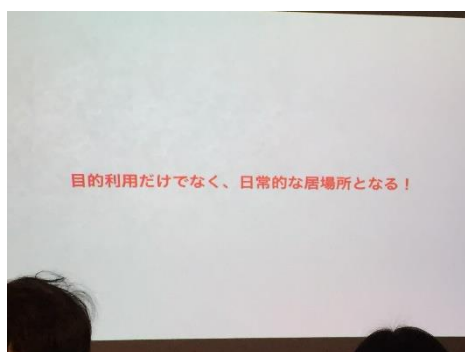


また、紹介があったように、いかにして起業をし、雇用を捻出するかがポイントではないでしょうか。私は市議会議員として行政に提案することも、議員提出議案として提案することもできます。しかし、それには相当の時間を要します。

そこで、私が今できることは、自らが起業をし、雇用を捻出することだと気づきました。待っていてはいつまで経っても街づくりはできないということです。

●これからの図書館のあり方・公共施設のあり方

単なる本の貸し借りの場だけでなく、そこに行けばコミュニティの輪を広げることができる空間が必要であります。今後は民間活力PFIを活かしたものを目指していきますとのことでした。



●まとめ

今回の研修会に参加をさせていただき、本当に勉強になりました。

改めて図書館の必要性、公共施設の在り方について見直すよいきっかけとなりました。

私は、図書館がとても必要であり、松戸市内にとってもりっぱなものが建ってほしいと思います。

ただ、これだけ『日常的な居場所となる』『多様な場を持つ変化ある空間』という図書館をどこまで、公費を投じて建設する必要があるのかという疑問も残りました。

なぜかと言うと、我が家族も先日埼玉県のリョッピングモールにいきました。

まさにそのショッピングモールは『日常的な居場所となる』『多様な場を持つ変化ある空間』なのです。ではそのショッピングモールは公費が投入されたかと言えば、NO。民間が建設しました。

これからの公費投入について、民間ができるものは民間が。民間にできないモノが公費投入という区分けをしなければいけないそんな時代に突入したと思います。

以上